

# **一般社団法人日本応用地質学会アクションプラン 2012**

日本応用地質学会は、会員相互の交流とその有機的な連携に基づく学際的・総合的な調査・研究および技術開発を行うことによって、応用地質学に関する調査・研究の推進と技術の進歩普及を図り、もって学術・文化の発展に寄与するとともに、人類のより安全で豊かな社会の実現へ寄与することを目的としている。この目的を果たすため、以下のアクションプラン(行動計画)を策定する。なお、このアクションプランは本年度から直ちに実行するものであるが、2年後には新プロジェクトメンバーによる評価と見直しを行うこととする。

## **1. アクションプラン 2012 の構成**

### **I. 会員の資質向上支援**

1. 学会誌の充実
2. 研究発表会・シンポジウムの充実
3. ホームページなど情報発信機能の充実

### **II. 学術・技術の進歩への貢献**

1. 基礎的な研究の継続
2. 研究教育部門の充実
3. 応用地質技術者の育成

### **III. 社会への貢献**

1. 災害時緊急対応と速報の発信
2. 一般市民への啓発・普及活動

### **IV. その他のアクションプラン**

1. 学会運営の健全化
2. 国際活動の活性化

## **2. アクションプラン 2012 の目標と具体的施策**

### **I. 会員の資質向上支援**

本学会の目的を果たすためには、会員である研究者・技術者の絶え間ない自己研鑽が必要である。学会は、会員の資質向上を支援することによって、社会に役立つ応用地質研究者・技術者を育成する必要がある。このために、以下の具体的なアクションをおこすこととする。

## I-1 学会誌の充実

---

多様化する会員等の情報ニーズに応じて、学会誌の内容を充実させ誰もが読みたくなり、親しみのあるものとする(主担当:編集委員会)。

### 具体的アクション

- 会員の情報発信の受け皿として、論文や報告の充実を図るほか、新たな編集企画に応じた原稿分類の適切な整理を行い、依頼原稿や新たな投稿原稿の掘り起こしを図る。
- J-STAGE の利用動向等を検証したうえで、発信時期や重要度に応じた効率的な情報発信の体系化を図る。
- 講座的な読みもの(Q&Aを含む)を充実させ、学会誌を面白く役立つものとする。
- 投稿や査読の効率化を図るために、電子投稿の検討を進める。

## I-2 研究発表会やシンポジウム、講習会、現場見学会の充実

---

会員の多くが研究成果を発表できる環境を整備するとともに、新しい話題を企画し提供する(主担当:事業企画委員会, 研究教育部門)。

### 具体的アクション

- 最新のトピックスを紹介し発表するシンポジウム・講習会を企画する。
- 研究発表会では、各研究部会のテーマ、突発的な災害などに応じたトピックセッションを設置する。
- テーマの選択では、既存の学問領域にとらわれずに、応用地質学の周辺領域や他分野も横断した学際的なテーマ領域にも対象を広げて考える。
- 研究発表会講演予稿集の電子化などで会員サービスの向上と運営の効率化を図る。
- 研究発表会会場に、支部活動、委員会活動の他、企業・団体の展示スペースを設け、トピックス、最新技術に関する情報交換の場を提供する。
- 講習会・現場見学会では、若い世代を対象とし応用地質学の技術伝承を図る。
- 口頭発表での優秀講演賞を新設する。

### I-3 ホームページなど情報発信機能の充実

ホームページを適宜更新し、本学会および関連学協会の最新情報を提供する。またニュースリストを活用し、タイムリーなニュースやトピックスを会員に発信する(担当:広報部会)。

#### 具体的アクション

- 学会内の各委員会と連携して、会員に加え一般の人にも応用地質学と学会員を広く知ってもらえるような魅力あるHP作成を目指す。
- ニュースリストは、各委員会および支部における活動の広報ツールとして、利用しやすい環境を整備する。
- 応用地質学の学問分野および学会活動に対する社会的認知度向上を目指して、本学会が主催する行事等のプレス発表を事業企画委員会や支部事務局と連携しながら行う。

## II. 学術・技術の進歩への貢献

本学会の目的を果たすためには、学会として応用地質学に関する基礎的な研究を継続的に行うとともに、実務レベルの研究・教育を担う研究者・技術者を育成する必要がある。このために、以下の具体的なアクションをおこすこととする。

### II-1 基礎的な研究の継続

学術団体として、基本である応用地質学に関する基礎的研究を継続して行う(担当:各研究部会)。

#### 具体的アクション

- 基礎的な研究を継続して行うために、地下水研究部会、応用地形学研究部会、災害地質研究部会、環境地質研究部会および土木地質研究部会を設置し、活動を開始する。
- 外部から調査・研究の委託があった場合、その受け皿となる。
- 日本地球惑星科学連合大会のプログラムのセッションを検討する。

## II-2 研究教育部門の充実

実務レベルの研究・教育・啓発・普及を担う研究教育部門を充実させる(主担当:研究教育部門).

### 具体的アクション

- 最近の研究動向や学会員からの意見を踏まえて、時代に即した緊急性の高いテーマに関する研究を目的とした研究小委員会を設置し、先端的な研究を期間限定で行う。
- 研究教育部門の常置委員会（研究企画委員会・応用地質学教育普及委員会）および各研究部会は、関連する委員会（事業企画委員会・広報部会など）と連携を密にして活動する。
- 普及講座（「応用地質」誌上）の企画および一般向け普及書の企画と出版を行う。
- 各種世代の集合体からなる講習会、勉強会、見学会などを開催し、研究・技術の伝承活動を行う。

## II-3 応用地質技術者の育成

応用地質技術者育成のためのサービスを充実させる(主担当:応用地質学教育普及委員会).

### 具体的アクション

- 応用地質学に関連した幅広い教育を行うことを目的に、応用地質学教育普及委員会を中心として、応用地質学に関する会員教育計画を立案する。
- 応用地質学教育普及委員会では、日本技術者教育認定機構（JABEE）の地球・資源およびその関連分野における教育プログラムの認定審査への協力および認定のあり方の検討を行う。
- シニア世代の参画を仰ぎ、若い世代を対象として応用地質学ノウハウなど技術伝承が図れるようにする。
- 大学との連携による集中講義方式（単位取得）の応用地質学出前授業を実施する。

### Ⅲ. 社会への貢献

本学会の目的の一つは、研究成果の普及をもって、社会の学術・文化の発展に寄与するとともに、人類のより安全で豊かな社会の実現へ寄与することである。

#### Ⅲ-1 災害時緊急対応と速報の発信

発災時には、学会をあげて対応できるように体制を整備する(主担当:理事会, 災害地質研究部会)。

##### 具体的アクション

- 発災時の指揮系統や体制を整備し、これに従がって会員に情報を発信する。
- 発災時には常置の災害地質研究部会が中心となり、被災地の支部と協力して災害情報の収集や実態調査を行い、災害調査結果をすみやかに公表する。
- 会員からの災害調査情報は、直ちに開示する。
- 被災地支部会員の安否や被災状況を確認し、必要な支援を行う。

#### Ⅲ-2 一般市民への啓発・普及活動

一般市民への啓発・普及活動や安全な地域社会へ向けての提言を行う(主担当:各支部, 事業企画委員会, 各研究部会)。

##### 具体的アクション

- 各支部独自の活動と歴史を尊重し、地域に根ざした支部活動、例えば一般住民、小中学校生等に対する防災教育・講習会を行う。
- 応用地質に関連した事項を分かりやすく説明・解説するミニ講習会、出前講座(企業、公民館、学校など)を行う。
- 「開かれた応用地質学会」を目標として、研究発表会の特別講演、シンポジウム、講習会等の一般市民へのPRと参加しやすい受け入れ態勢を構築する。
- 「地質の日」関連事業として、他学会と共同でワンデートリップなど積極的に企画する。
- 一般市民向け普及書の企画と出版を行う。

## IV. その他のアクションプラン

世の中の一般的な流れとして、少子高齢化にともなう会員減少と国際化は避けて通れない問題であるため、ここで別途とりあげる。

### IV-1 学会運営の健全化

---

**会員減少に対応するために多面的な施策を実行する(主担当:理事会, 総務委員会).**

#### 具体的アクション

- ニュースリストのより一層の活用や資料の電子化などにより、経費の削減につなげる。
- 会費の自動振り込みを促進する。
- 支部単位で、他学会・協会とのコラボレーションを積極的に行なう。例えば、講習会、見学会などの経費削減および内容の充実化、さらには相互の会員の交流を目指して、行事などを共同開催する。
- 学生との交流（大学でのミニ講座、共同巡検など）、教育支援、学会発表時の若手表彰などによって若手会員の確保を図る。

### IV-2 国際活動の活性化

---

**国際委員会を中心に、国内外の情報発信を活発化する(主担当:国際委員会).**

#### 具体的アクション

- HP を活用して、国内向けには、国際会議情報のタイムリーな掲載、IAEG 活動のトピックスの日本語掲載、国際応用地質学会誌(プリテン)の論文タイトルと要旨の紹介を掲載する。
- 海外に向けては、学会英語版 HP の情報更新頻度を上げるとともに、(国内)応用地質論文の英文アブストラクトを利用して研究を紹介する。
- IAEG 会議における日本からの研究発表を促進するとともに、海外で発表する若手や学生会員等への参加費支援を行う。